

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 元年 11月 18日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491900167		
法人名	医療法人社団ワイ・エス・ケー心代会		
事業所名	グループホームかわち「ぬくもりの家」		
所在地	広島県三次市下川立町488-2 (電話) 0824-65-4077		
自己評価作成日	令和元年10月20日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3491900167-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和元年11月12日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

入居者お一人お一人の以前の生活を尊重し、その人らしさを大切に心落ち着いた暮らしができるよう、「愛につつまれて、心から和める、ぬくもりのある施設を目指します」の理念のもと、「寄り添うケア」に努めています。家族・地域との絆が途絶えないよう交流を大切にし、生きがいのもてる、豊かな共同生活ができる、グループホームを目指すとともに、小中学校に隣接した場所にある利点を活かし、子供たちとの交流を大切にし、地域の一員として愛される施設となるよう努力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

この1年間の特徴的な取り組みとして第一に「事業所と地域とのつきあい」の深化がある。従来の夕涼み会から「子ども盆踊り大会」へと衣替えし、より幅広い地域との交流を図った結果、子ども・大人・中学生ボランティア・男子サロンの会の大人ボランティア等、総勢100名の参加を得た。地域での盆踊りも廃れてきた中、浴衣を羽織った利用者や子どもさんの若い父兄も交えて行っている。第二に「思いや意向の把握」「馴染みの人や場との関係継続の支援」の深化がある。即ち、余命も心配され、入院中食が取れず、事業所に帰りたいたいと退院した利用者に高カロリーゼリー・家族から聞いた本人の好きな物等、様々な選択肢を試行し、生きる力に寄り添った結果、食の回復、地元の敬老会に行きたい思いの実現に繋がった。

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念に添い、施設全体の年間目標、入居者と共に生活をする上でのホーム独自の年間目標を掲げ、理念の実施とつなげている。ホーム全体で身近な、事例、研修会を定期的に行い、グループワークを行う事により、管理者と職員で共有し実践になるように取り組んでいる。	法人理念・施設年間目標を所内に掲示し、実践上の立ち返るべき原点として位置付けている。又、その理念の下に年間事業所目標「お手伝い介護から支援介護へ」を定め、年度末に評価・検証を行うと共に理念を踏まえた職員個人の年間目標も設定し、半期毎の個人面談で理念の達成度を検証している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事が開催される際は、職員が役員として関わり、事業所と地域のパイプ役となり、利用者が地域との繋がりを続けられるよう交流をしている。又、定期的に地域のボランティアの方の活動があり、地域の保育所、小学生、中学生との交流も多く行っている。又、事業所として、地域行事の企画運営側として参加する事が多くなっている。	日頃から散歩等で地域住民と挨拶を交わしたり、ふるさと祭りや敬老会等、地域行事の運営に協力したり利用者や参加したりしている。子ども盆踊り大会の開催やそば打ち、他のボランティアの受け入れ等、相互交流と共に保育所運動会・小学生の稲刈り見学、中学生との世代間交流にも取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も地域からの要請を受け、地区サロン等で認知症予防についての講義を行うなど、認知症の理解を促している。地元の小中学生には、認知症サポーターとしてボランティア学習の受け入れを行っている。地域ケア会議のメンバーに加わり地域の課題に取り組んでいる。事業所には認知症ケア専門士や認知症アドバイザーを配置することで地域の相談窓口となるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能施設との合同で、2ヶ月に1回定期的に開催している。出席者との有意義な意見交換の場となっている。会議以外にも、入居者の方や家族の方と一緒に夏祭りや消防訓練に参加していただいている。今年度は日常生活の様子を見て頂き、事業所の取組み状況を踏まえた上で、その後の助言をいただくことでサービス向上に活かしている。	会議は併設小規模多機能事業所と合同で定期的に開催され、家族代表・地域住民・民生委員・自治会事務局長・市職員・地域包括支援センター職員・巡査長が毎回参加している。会議では事業所の現況・事故報告や意見交換が行われ、避難経路を車いす対応仕様とするため一部を舗装した経緯がある。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター職員の出席があり、意見や情報交換を行っている。また、疑問等は、電話での相談のやり取りの連携を行っている。市の介護予防事業の委託を受け「家族介護者教室」「元気ハツラツ教室」「高齢者トレーニング教室」を開催しており、職員が送迎や講師をし運営を行っている。	運営推進会議には市・地域包括支援センター職員が毎回参加し、情報を共有している。行政主催の虐待防止等の研修への参加や職員が地域サロン・認知症サポーター養成講座講師を務めたり、三次地域密着型サービス事業所連絡会の立ち上げや市の介護予防事業の受託等、地域貢献にも取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	マニュアルを作成し、施設内での研修を行うことで拘束のないケアの重要性を理解し取り組んでいる。また、アンケートを実施し、改善点について毎月振り返りを行う事により、意識向上玄関、ユニット扉については夜間のみ施錠としている。帰宅願望のある入居者の方にも、制止の言葉は使わない事を周知し、散歩等気分転換して頂くように取り組んでいる。年に1回研修会を開催している。	朝礼で声掛けの啓発やスピーチロック・アンケート実施と毎月の検証を通し、職員は日々実践を重ねている。日中は玄関を施錠せず見守りをしたり、センサーマットを設置し拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。隔月の身体的拘束等適正化委員会で事例検討等を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止マニュアルを作成し意識を促し、勉強会をすることで職員間での連携を図っている。職員の個人面談・チェックシート等を行いストレスケアをすることで虐待を招かないよう努めている。虐待防止の外部研修などは積極的に参加している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設長・管理者に於いては、研修等に参加する機会を設け、自施設で職員への研修会を実施し周知している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居時の契約や解約、改定は入居者や家族より疑問や不安なことがないか確認しながら十分な説明を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日常や対話の中で不満や要望等を含み取りながら、管理者会議やミーティング等で話し合いを行い、入居者の要望に応えられるよう支援している。また、普段から家族とのコミュニケーションを深め面会時の会話の中から、要望や意見を聞くようにしている。	利用者の意見は日々の会話の中で、家族とは面会・運営推進会議・意見箱等を介して職員や管理者が把握する様に努め、実現に向けた支援を行う。利用者の声で紅葉狩りドライブや、常会会議（利用者会議）を経て席替えを実施し、家族の要望で地域の敬老会への参加や孫の結婚式に出席した例がある。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットでのミーティングや個人面談での意見や提案等を出しやすい環境を作っている。また、職員が主体となり各種委員会（感染・広報・美化・研修・防災）の委員長や委員メンバーとなり委員会を運営している。各ユニットの意見や提案は、毎月の運営会議（リーダー以上会議）に持ち寄り、反映に努めている。	毎日の申し送り、毎月のユニット別会議・各種委員会、年2回又は随時の個別面談、随時の「提案シート」等を通して意見を聞く機会を設け、介護方法・業務上の提案や個人目標の進捗状況等に対する支援体制を採っている。美化委員の提案でフロアのワックス掛けを業者から職員に替えた例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入し、自己評価も定期的に行い提出している。それに基づいて、面談をすることにより職員一人ひとりの意識の向上を図るとともに、より良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修、自主研修等を積極的に受ける機会を設けている、研修委員会を中心に年間計画を立て実施している。資格取得についても補助制度などを設け取得しやすい環境にしている。施設外で学んだ研修を持ち帰り、施設内で職員が講師となり研修会を開催することにより、より深く学び、自信につなげ、スキルアップできるようにすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	昨年度より三次地域密着型サービス事業所連絡会を立ち上げたことにより、市内9事業所との意見交換を行うことができサービスの質の向上に繋がるネットワークづくりを行っている。その他、管理者や職員は、外部研修等を通して同業者や他専門職の方との交換や共有をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用など設けることでスムーズに入居できるように進めている。家族やケアマネージャーからも情報を得、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴を聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるように準備を進めている。他のサービスでも支援が有効であると考えられる場合は情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者1人ひとりの立場や思いをくみ取り、暮らしを共にする者同士の良い関係が築けている。一緒に食事をしたり、家事をしたり、共に暮らしている環境を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、利用者の様子がわかるようように、手紙「今月のご様子」や広報誌を家族に送り情報を提供している。また、本人から家族へ定期的にハガキを出したり、ぬくもりでの行事等でご家族に案内を出し、参加して頂くことで、絆が途切れない関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時には、本人、家族から馴染みの関係を聞き、入居前と変わらず友人や知人との訪問や外出支援を行っている。馴染みの理美容室、飲食店などの場所に行き、散髪や食事を楽しんで頂けるように支援している。	事業所併設の介護予防トレーニング教室利用帰りの知人の訪問があったり、地域行事等で知人と挨拶をしたり、美容院・自宅等への外出を通して馴染みの場所で馴染みの顔や声と何気ない日常を楽しめる様に支援している。元国鉄職員の利用者が芸備線の全線開通式の列車を見物に行った例もある。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話が弾むような席の配置を心掛けている。一人ひとりの関わりを大切にしながら、食事の準備や掃除等を職員と一緒にやっている。また、月1回のカラオケや、毎週日曜日のおつとめ等の合同行事も計画し、施設全体で関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了する場合であっても入居者と家族がその後の生活に困ることの無いように、いつでも相談を行える体制をとっている。移り住む所の関係者にも必要に応じて情報を提供している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用など設けることでスムーズに入居できるように進めている。家族やケアマネジャーからも情報を得、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。	「私のあしあと」シート等で利用者の習慣や好み等を把握し、その後はその方の気持ちを大事にしつつゆっくり話す時間を作り行動を理解する様努め、家族情報も参考に申し送りノート等で共有している。受容して利用者の「強み」に意識を向け、敢えて包丁等の使用や職員の手本で支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネジャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴を聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるように準備を進めている。他のサービスでも支援が有効であると考えられる場合は情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>利用者1人ひとりの立場や思いをくみ取り、暮らしを共にする者同士の良い関係が築けている。一緒に食事をしたり、家事をしたり、共に暮らしている環境を作るよう努めている。</p>	<p>利用者毎の担当職員の情報収集を基に計画作成担当者が原案を作成、面会時に家族の同意を得て本案としている。職員全員で三ヶ月毎モニタリングを行い半年を基本に計画を見直す。入院中食が取れず、ここに帰りたくと退院した利用者に試行錯誤の末、食の回復、地元の敬老会参加に至った例がある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎月、利用者の様子がわかるようように、手紙「今月のご様子」や広報誌を家族に送り情報を提供している。また、本人から家族へ定期的にハガキを出したり、ぬくもりでの行事等ご家族に案内を出し、参加して頂くことで、絆が途切れない関係作りを築いている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>入居時には、本人、家族から馴染みの関係を聞き、入居前と変わらず友人や知人との訪問や外出支援を行っている。馴染みの理美容室、飲食店などの場所に行き、散髪や食事を楽しんで頂けるように支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>利用者同士の会話が弾むような席の配置を心掛けている。一人ひとりの関わりを大切にしながら、食事の準備や掃除等を職員と一緒にやっている。また、月1回のカラオケや、毎週日曜日のおつとめ等の合同行事も計画し、施設全体で関わりが持てるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>毎月主治医から「医学的情報と今後の方針」を、主治医には利用者の「今月のご様子」を提供しお互いに情報共有している。また、看護師との連絡ノートを作成し、心配事や利用者の希望などが看護師を通じて医師にも相談できる体制をつくっている。</p>	<p>利用前の主治医の受診継続も可能だが、殆どの利用者は協力医を主治医としている。協力医からは2週毎の往診があり、又、毎月協力医から「現在の医学的状況と今後の方針」、事業所から「今月のご様子」の情報が家族を含めた三者に相互発信され、医療と介護の連携、情報の共有が図られている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	心身状況の変化などで介護上不安に感じることがあれば看護師に報告、相談しアドバイスを貰いながら処置や受診に繋げている。また、ドクター・ナースの連携ノートも活用し、介護職員との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院など余儀なくされた場合も病状や療養経過を家族から報告を受けたり、医療連携室のソーシャルワーカーと連携して今後についても一緒に考え相談できる関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	開設後、現在までホームでの看取りを数例している。重度化した場合は、本人、家族や医師と相談しながら、希望があれば看取りを行う方針にある。法人内の医院が近くにあり、医師と24時間連絡が取れ、緊急時にも的確に対応して頂けるよう体制が整っている。	事業所としては要望があれば看取りを行なう方針である。入居時に「看取りに関する指針・看取り同意書」にて説明し了解を得ている。重度化した際には家族等、関係者で話し合いを行い書面による同意の下、支援を行い看取り後のグリーフケア等の振り返りや毎年居間にある仏壇で法要も行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の緊急蘇生法やAEDの使用法を外部講師（消防署）からの研修を職員が受けている。施設で起こりうる、急変に必要な救急処置の研修を看護師により定期的の実施している。都度看護師等の指導を受けたり勉強会などで今後身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回火災想定訓練を行っている。地域の消防団と連携し火災想定訓練を計画している。近隣との信頼関係はあり協力が得られる状況にある。自治会主催の合同避難訓練に参加し災害時の連携体制を築いている。又、運営推進会議の方々にも訓練を見学して頂き、意見をもらいマニュアルの見直しを行っている。	消防署立ち会いも含め夜間想定や利用者も参加して定期的に火災避難訓練を行うと共に今回初めて災害時訓練も実施した。自治会主催の合同避難訓練に参加したり、事業所を一時的な緊急避難施設として利用可能な旨を発信し地域との連携を図っている。今般の豪雨災害でも一時避難所として機能した。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を実施し、人格を尊重した言葉かけや対応について理解を深めている。制止の言葉は使わないことを周知し、入居者の思いに添った支援に努めている。また常日頃から、プライバシーには配慮しながらケアを行っている。言葉使いや対応に関して、職員同士でも日頃から、お互いに評価を行っている。	研修で職員の幅広い知識の習得を図る体制もある。排泄時等のプライバシーについても職員は利用者目線で対応し、不適切な対応には指導を行い気づく事の重要性や望ましい対応を意識できる職員育成に取り組んでいる。例えば利用者に関する話も外出時等、周囲の他人に伝わらない様配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から、本人の希望や思いを表せるよう努めている。おやつや時間に自分の食べたいものを選んで頂いたり、入浴時には自分で服を選んで頂くように声かけし、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、意思を必ず確認し、希望に沿った支援を心がけている。本人のやりたい事や思いはケアプランにも反映して、その人らしい日々の暮らしになるよう支援している。日常業務についても入居者の状況により柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、頭髪などの身だしなみを整えていただく事で、おしゃれへの意識を持ち続けられるよう援助している。行事・外出等、その場に合った服装やおしゃれのできる声掛けや複数の服の中から選べるよう準備することやお化粧品等の支援を行っている。また、パーマや髪染めの要望があれば行きつけの美容院に行くなど支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力を活かし、それぞれに役割を持ち、買い物・下ごしらえ・調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い物等分担し、食事作りに参加している。献立作りも日々の会話の中から要望を聞き献立に反映している。時には、バイキングやお弁当作りや秋刀魚を焼く会、季節のおやつ作り等、楽しみのある食事作りを工夫しながら支援している。嚥下困難な利用者の方にも、見た目や美味しく食べられる工夫を考え提供できるように取り組んでいる。	献立は利用者の好みを参考に主に職員が立て三食手作りである。食材の買い出し・調理等も利用者と共にやるが、秋刀魚を焼く会やおにぎり弁当で小学生の稲刈り見学等の他、回転寿司等の外食を楽しむこともある。又、嚥下困難な方にもトロミある食材やカレーも別々にミキサーにかける等、美味しく食べられる工夫を凝らしている。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量を記録に残し、その入居者の方に合った食事形態で提供している。又、水分量の少ない利用者の方には、個々の好みの飲み物を提供することでしっかりと摂取していただいている。夜間も、個々にお茶などを準備して居室に置き、水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず声掛けをしている。義歯等磨くことが難しい入居者には、介助を行い清潔を保持している。義歯と口腔ケアセットの洗浄・消毒は毎日行っている。歯や義歯の不具合がある場合には、歯科受診をして治療や相談を行い、清潔な口腔状態を維持できるようにしている。又、歯科衛生士の資格を有する職員がおり、相談を行わない必要時、受診につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンをケア記録に記載し、入居後も自立支援に向けた支援を行っている。紙パンツから布パンツへ移行がほとんどである。また、排泄時、適度な腹圧がかかるよう足元に台を置くなどして排泄しやすい姿勢が保てるよう支援している。	排泄記録表で利用者の排泄パターンを把握・共有している。排泄の自立支援として入院中の紙おむつから紙・布パンツへの移行や日中は布パンツ、夜間は紙パンツ又はパッド対応等がある。又、夜間排泄時の転倒防止の為、ベッド周辺にポータブルトイレやセンサーマットの設置等の環境整備もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、一人ひとりの排便チェックを行い、便秘の入居者の方には、個々の状態に応じて、ヨーグルトの摂取や食物繊維の補助食の提供や水分摂取を心掛け、適度な運動を取り入れながら、できるだけ下剤に頼らないように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	好みに合わせた入浴剤の使用や温度設定をし、ゆったりと入浴時間の提供を支援している。入浴拒否に対しては、日を改めて入浴の声掛けを行っている。又、午前・午後共に時間帯の希望があれば出来る限り応じられるよう取り組んでいる。同性介助者を希望される方には対応している。	週2回の入浴が基本だが毎日でも可能である。利用者の体調や入浴習慣に合わせて好みの湯温や時間等、柔軟に対応している。利用者負担を考慮しシャワー浴・足浴等で対応することもある。浴槽跨ぎの難しい方にリフト等の環境整備や浴室窓に貼られた銭湯風富士山の絵や冬の柚子湯も好評である。	

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	いつでも、自由に落ち着く場所 で休息を取っていただいている。 夜間の睡眠状態等を、日中に申 し送り、個々に合わせた休息を取 っていただけるようにしている。 安眠できるよう、照明や、寝具 など本人の要望に合わせている。 また巡視時には、室温の調整を 行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	医師の処方に基づいて、居宅療 養管理指導の薬剤師が調整した 薬を、介護職員が説明を受け服 薬支援をしている。変化のあつた 際は都度、看護師やかかりつけ 医に報告する。また服薬チェッ クは飲む前後、職員二名でダブル チェックを行い飲み忘れや誤薬 防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	生活歴や本人の要望や興味のある 事を把握した上で役割を持った 日々を過ごしてもらえるよう支 援している。食事の準備や、配 膳、盛り付けなど積極的にされ、 買い物等の外出支援やドライブ、 散歩などで気分転換にも努めて いる。現在は小学校の雑巾縫い を任せられた役割となっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地域 の人々と協力しながら出かける ように支援している。	季節ごとにドライブにでかけたり、 買い物や外食、自宅や友人宅へ の外出を希望にそっていつでも 外出できるように支援している。 地域の祭りや敬老会等の行事へ は地域の方の協力を得ながら参 加している。家族の協力を得て、 温泉施設や外食等、家族も含んだ 外出支援を行っている。	日頃から少人数で散歩を楽しんだり、 蛸狩り・湧永庭園等の季節行事や ふるさと祭り・敬老会等、普段は 行けないような地域行事に参加し 「非日常」を楽しむこともある。 又、元国鉄職員の利用者が芸備 線の全線開通式の列車を見物に 行く等の個別外出支援の他、家 族との外食・外出も好評である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	自己管理されておられる方と事業 所で預かっている方とおられる。 買い物希望がある時は、好きな ものを自分で買える楽しみを味 わえる支援している。		

自己評価	外部評価	項目(Aユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族や知人の方と、話したい場合等は、電話や手紙で連絡をいつでも取っていただけるよう支援している。年賀状のやり取りも毎年行っている。</p>	/	
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾り季節感を感じて頂いている。温度や湿度にも配慮し、冬場には定期的な換気を行い、感染予防にも努めている。ウイルス、殺菌除去に効果がある薬品を見えない場所に置くなどし、感染予防や不快な臭いのない空間づくりを行っている。</p>	<p>フロアは窓から明るい光が差し込む開放的な空間で、所内に飾られた花や正月・クリスマス等、季節行事の飾り付けや利用者で作った壁掛け作品にも季節感がある。職員の提案で始めたメダカの飼育も利用者の餌やりが日課となり、干し柿作りや居間の仏壇で日曜午後には開かれるお勤めも生活感がある。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う入居者同士が話ができるように椅子やソファを配置している。また、落ち着ける空間も設け、テーブルを置き快適に過ごせるようにしている。席替えを行う際は、常会会議(入居者会議)を開催し説明を行ったうえで実施している。</p>	/	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や布団など、使い慣れた物を活かして、居心地良く過ごせる様に入居前に本人、家族に説明をしている。本人、家族の写真や思い出の品も飾っていただいている。仏壇なども持参されている方もいる。</p>	<p>居室にはベッド・床頭台・洗面台等が備え付けられ、箆笥等、使い慣れた物や自作の刺し子等、好みの物を持ち込み居心地よく過ごせる様にしている。各扉には避難時本人確認もできる防災カードが設置されたり、利用者によってはセンサーマットを設置し、拘束廃止に向けた側面支援を行う時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室には名札を設け、自分の居室を迷うことがないようにし、トイレや風呂場は解りやすく表示してある。日めくりカレンダーを大きく設置し入居者の方が管理し役割として生活が送れる工夫をしている。</p>	/	

V アウトカム項目(Aユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	理念に添い、施設全体の年間目標、入居者と共に生活をする上でのホーム独自の年間目標を掲げ、理念の実施につなげている。ホーム全体で身近な、事例、研修会を定期的に行い、グループワークを行う事により、管理者と職員で共有し実践になるように取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域行事が開催される際は、職員が役員として関わり、事業所と地域のパイプ役となり、利用者が地域との繋がりを続けられるよう交流をしている。又、定期的に地域のボランティアの方の活動があり、地元の保育所、小学生、中学生との交流も多く行っている。又、事業所として、地域行事の企画運営側として参加する事が多くなっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今年度も地域からの要請を受け、地区サロン等で認知症予防についての講義を行うなど、認知症の理解を促している。地元の小学生には、認知症サポーターとしてボランティア学習の受け入れを行っている。地域ケア会議のメンバーに加わり地域の課題に取り組んでいる。事業所には認知症ケア専門士や認知症アドバイザーを配置することで地域の相談窓口となるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、併設の小規模多機能施設との合同で、2ヶ月に1回定期的開催している。出席者との有意義な意見交換の場となっている。会議以外にも、入居者の方や家族の方と一緒に夏祭りや消防訓練に参加していただいている。今年度は日常生活の様子を見て頂き、事業所の取組み状況を踏まえた上で、その後の助言をいただくことでサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議に、市職員、地域包括支援センター職員の出席があり、意見や情報交換を行っている。また、疑問等は、電話での相談のやり取りの連携を行っている。市の介護予防事業の委託を受け「家族介護者教室」「元気ハツラツ教室」「高齢者トレーニング教室」を開催しており、職員が送迎や講師をし運営を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>マニュアルを作成し、施設内での研修を行うことで拘束のないケアの重要性を理解し取り組んでいる。また、アンケートを実施し、改善点について毎月振り返りを行う事により、意識向上玄関、ユニット扉については夜間のみ施錠としている。帰宅願望のある入居者の方にも、制止の言葉は使わない事を周知し、散歩等気分転換して頂くように取り組んでいる。年に1回研修会を開催している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>虐待防止マニュアルを作成し意識を促し、勉強会をすることで職員間での連携を図っている。職員の個人面談・チェックシート等を行いストレスケアをすることで虐待を招かないよう努めている。虐待防止の外部研修などは積極的に参加している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>施設長・管理者に於いては、研修等に参加する機会を設け、自施設で職員への研修会を実施し周知している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居時の契約や解約、改定は入居者や家族より疑問や不安がないか確認しながら十分な説明を行い同意を得ている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>日常や対話の中で不満や要望等をくみ取りながら、管理者会議やミーティング等で話し合いを行い、入居者の要望に応えられるよう支援している。また、普段から家族とのコミュニケーションを深め面会時の会話の中から、要望や意見を聞くようにしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	各ユニットでのミーティングや個人面談での意見や提案等を出しやすい環境を作っている。また、職員が主体となり各種委員会（感染・広報・美化・研修・防災）の委員長や委員メンバーとなり委員会を運営している。各ユニットの意見や提案は、毎月の運営会議（リーダー以上会議）に持ち寄り、反映に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	キャリアパス制度を導入し、自己評価も定期的に行い提出している。それに基づいて、面談をすることにより職員一人ひとりの意識の向上を図るとともに、より良い職場環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修、自主研修等を積極的に受ける機会を設けている、研修委員会を中心に年間計画を立て実施している。資格取得についても補助制度などを設け取得しやすい環境にしている。施設外で学んだ研修を持ち帰り、施設内で職員が講師となり研修会を開催することにより、より深く学び、自信につなげ、スキルアップできるようにすすめている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	昨年度より三次地域密着型サービス事業所連絡会を立ち上げたことにより、市内9事業所との意見交換を行うことができサービスの質の向上に繋がるネットワークづくりを行っている。その他、管理者や職員は、外部研修等を通して同業者や他専門職の方との交換や共有をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用など設けることでスムーズに入居できるように進めている。家族やケアマネージャーからも情報を得、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴を聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるように準備を進めている。他のサービスでも支援が有効であると考えられる場合は情報を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	利用者1人ひとりの立場や思いをくみ取り、暮らしを共にする者同士の良い関係が築けている。一緒に食事をしたり、家事をしたり、共に暮らしている環境を作るよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、利用者の様子がわかるようように、手紙「今月のご様子」や広報誌を家族に送り情報を提供している。また、本人から家族へ定期的にハガキを出したり、ぬくもりでの行事等でご家族に案内を出し、参加して頂くことで、絆が途切れない関係作りを築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	入居時には、本人、家族から馴染みの関係を聞き、入居前と変わらず友人や知人との訪問や外出支援を行っている。馴染みの理美容室、飲食店などの場所に行き、散髪や食事を楽しんで頂けるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の会話が弾むような席の配置を心掛けている。一人ひとりの関わりを大切にしながら、食事の準備や掃除等を職員と一緒にやっている。また、月1回のカラオケや、毎週日曜日のおつとめ等の合同行事も計画し、施設全体で関わりが持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	利用が終了する場合であっても入居者と家族がその後の生活に困ることの無いように、いつでも相談を行える体制をとっている。移り住む所の関係者にも必要に応じて情報を提供している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居前に本人と面接を行い、会話の中から本人の意向を把握するように努めている。入居前に施設見学や体験利用など設けることでスムーズに入居できるように進めている。家族やケアマネージャーからも情報を得、要望等を聞き入れながら信頼関係を保ち、安心した生活を送ってもらえるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	担当ケアマネージャーから現状を聞いた上で、家族からも入居者の生活歴を聞き取りを行い、その中で、家族が困っている事や要望等を聞き出しながら信頼関係を築いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	本人又は家族の思いから必要な支援ができるように準備を進めている。他のサービスでも支援が有効であると考えられる場合は情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者1人ひとりの立場や思いをくみ取り、暮らしを共にする者同士の良い関係が築けている。一緒に食事をしたり、家事をしたり、共に暮らしている環境を作るよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	毎月、利用者の様子がわかるようように、手紙「今月のご様子」や広報誌を家族に送り情報を提供している。また、本人から家族へ定期的にハガキを出したり、ぬくもりでの行事等でご家族に案内を出し、参加して頂くことで、絆が途切れない関係作りを築いている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	入居時には、本人、家族から馴染みの関係を聞き、入居前と変わらず友人や知人との訪問や外出支援を行っている。馴染みの理美容室、飲食店などの場所に行き、散髪や食事を楽しんで頂けるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	利用者同士の会話が弾むような席の配置を心掛けている。一人ひとりの関わりを大切にしながら、食事の準備や掃除等を職員と一緒にやっている。また、月1回のカラオケや、毎週日曜日のおつとめ等の合同行事も計画し、施設全体で関わりが持てるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用が終了する場合であっても入居者と家族がその後の生活に困ることの無いように、いつでも相談を行える体制をとっている。移り住む所の関係者にも必要に応じて情報を提供している。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	心身状況の変化などで介護上不安に感じることがあれば看護師に報告、相談しアドバイスを貰いながら処置や受診に繋げている。また、ドクター・ナースの連携ノートも活用し、介護職員との連携を密にしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院など余儀なくされた場合も病状や療養経過を家族から報告を受けたり、医療連携室のソーシャルワーカーと連携して今後についても一緒に考え相談できる関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	開設後、現在までホームでの看取りを数例している。重度化した場合は、本人、家族や医師と相談しながら、希望があれば看取りを行う方針にある。法人内の医院が近くにあり、医師と24時間連絡が取れ、緊急時にも的確に対応して頂けるよう体制が整っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故発生時の緊急蘇生法やAEDの使用法を外部講師（消防署）からの研修を職員が受けている。施設で起こりうる、急変に必要な救急処置の研修を看護師により定期的の実施している。都度看護師等の指導を受けたり勉強会などで今後身につけていきたい。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回火災想定訓練を行っている。地域の消防団と連携し火災想定訓練を計画している。近隣との信頼関係はあり協力が得られる状況にある。自治会主催の合同避難訓練に参加し災害時の連携体制を築いている。又、運営推進会議の方々にも訓練を見学して頂き、意見をもらいマニュアルの見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	研修を実施し、人格を尊重した言葉かけや対応について理解を深めている。制止の言葉は使わないことを周知し、入居者の思いに添った支援に努めている。また常日頃から、プライバシーには配慮しながらケアを行っている。言葉使いや対応に関して、職員同士でも日頃から、お互いに評価を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常会話の中から、本人の希望や思いを表せるよう努めている。おやつ時間に自分の食べたいものを選んで頂いたり、入浴時には自分で服を選んで頂くように声かけし、自己決定ができるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりのペースに合わせて、意思を必ず確認し、希望に沿った支援を心がけている。本人のやりたい事や思いはケアプランにも反映して、その人らしい日々の暮らしになるよう支援している。日常業務についても入居者の状況により柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	毎朝、頭髪などの身だしなみを整えていただく事で、おしゃれへの意識を持ち続けられるよう援助している。行事・外出等、その場に合った服装やおしゃれのできる声掛けや複数の服の中から選べるよう準備することやお化粧品等の支援を行っている。また、パーマや髪染めの要望があれば行きつけの美容院に行くなど支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	一人ひとりの力を活かし、それぞれに役割を持ち、買い物・下ごしらえ・調理・盛り付け・配膳・下膳・洗い物等分担し、食事作りに参加している。献立作りも日々の会話の中から要望を聞き献立に反映している。時には、バイキングやお弁当作りや秋刀魚を焼く会、季節のおやつ作り等、楽しみのある食事作りを工夫しながら支援している。嚥下困難な利用者の方にも、見た目や美味しく食べられる工夫を考え提供できるように取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	毎日の食事量を記録に残し、その入居者の方に合った食事形態で提供している。又、水分量の少ない利用者の方には、個々の好みの飲み物を提供することでしっかりと摂取していただいている。夜間も、個々にお茶などを準備して居室に置き、水分補給を促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、必ず声掛けをしている。義歯等磨くことが難しい入居者には、介助を行い清潔を保持している。義歯と口腔ケアセットの洗浄・消毒は毎日行っている。歯や義歯の不具合がある場合には、歯科受診をして治療や相談を行い、清潔な口腔状態を維持できるようにしている。又、歯科衛生士の資格を有する職員がおり、相談を行ない必要時、受診につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	個々の排泄パターンをケア記録に記載し、入居後も自立支援に向けた支援を行っている。紙パンツから布パンツへ移行がほとんどである。また、排泄時、適度な腹圧がかかるよう足元に台を置くなどして排泄しやすい姿勢が保てるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	毎日、一人ひとりの排便チェックを行い、便秘の入居者の方には、個々の状態に応じて、ヨーグルトの摂取や食物繊維の補助食の提供や水分摂取を心掛け、適度な運動を取り入れながら、できるだけ下剤に頼らないように取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	好みに合わせた入浴剤の使用や温度設定をし、ゆったりのんびりとした入浴時間の提供を支援している。入浴拒否に対しては、日を改めて入浴の声掛けを行っている。又、午前・午後共に時間帯の希望があれば出来る限り応じられるよう取り組んでいる。同性介助者を希望される方には対応している。		

自己 評価	外部 評価	項 目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	いつでも、自由に落ち着く場所 で休息を取っていただいている。 夜間の睡眠状態等を、日中に申 し送り、個々に合わせた休息を取 っていただけるようにしている。 安眠できるよう、照明や、寝具 など本人の要望に合わせている。 また巡視時には、室温の調整を 行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	医師の処方に基づいて、居宅療 養管理指導の薬剤師が調整した 薬を、介護職員が説明を受け服 薬支援をしている。変化のあつた 際は都度、看護師やかかりつけ 医に報告する。また服薬チェッ クは飲む前後、職員二名でダブル チェックを行い飲み忘れや誤薬防 止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好品 、楽しみごと、気分転換等の支 援をしている。	生活歴や本人の要望や興味のある 事を把握した上で役割を持った日 々を過ごしてもらえるよう支援 している。食事の準備や、配膳、 盛り付けなど積極的にされ、買 い物等の外出支援やドライブ、散 歩などで気分転換にも努めてい る。現在は小学校の雑巾縫いを 任せられ役割となっている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段は 行けないような場所でも、本人 の希望を把握し、家族や地域の 人々と協力しながら出かけるよ うに支援している。	季節ごとにドライブにでかけたり 、買い物や外食、自宅や友人宅 への外出を希望にそっていつも 外出できるように支援している。 地域の祭りや敬老会等の行事へ は地域の方の協力を得ながら参 加している。家族の協力を得て 、温泉施設や外食等、家族も含 んだ外出支援を行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を 所持したり使えるように支援し ている。	自己管理されておられる方と事 業所で預かっている方がおられ る。買い物希望がある時は、好 きなものを自分で買える楽しみ を味わえる支援している。		

自己評価	外部評価	項目(Bユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>ご家族や知人の方と、話したい場合等は、電話や手紙で連絡をいつでも取っていただけるよう支援している。年賀状のやり取りも毎年行っている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節の花を飾り季節感を感じて頂いている。温度や湿度にも配慮し、冬場には定期的な換気を行い、感染予防にも努めている。ウイルス、殺菌除去に効果がある薬品を見えない場所に置くなどし、感染予防や不快な臭いのない空間づくりを行っている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>気の合う入居者同士が話ができるように椅子やソファを配置している。また、落ち着ける空間も設け、テーブルを置き快適に過ごせるようにしている。席替えを行う際は、常会会議(入居者会議)を開催し説明を行ったうえで実施している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>家具や布団など、使い慣れた物を活かして、居心地良く過ごせる様に入居前に本人、家族に説明をしている。本人、家族の写真や思い出の品も飾っていただいている。仏壇なども持参されている方もいる。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>居室には名札を設け、自分の居室を迷うことがないようにし、トイレや風呂場は解りやすく表示してある。日めくりカレンダーを大きく設置し入居者の方が管理し役割として生活が送れる工夫をしている。</p>		

V アウトカム項目(Bユニット) ← 左記()内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームかわち「ぬくもりの家」

作成日 令和2年1月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回の避難訓練を行っているが、災害時の訓練が少ない。	災害時の訓練内容をより具体的にし、マニュアルの見直しも行う。	災害時避難マニュアルの見直し。	1年間
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。